

連 載

経済金融用語の基礎知識 <第 17 回>

国際的な短期金利の指標 LIBOR

安藤 範親

はじめに

6月27日、英大手銀行バークレイズに対し、2.9億ポンド（約360億円）という巨額の課徴金が課された。短期金利の国際的な指標であるロンドン銀行間取引金利（London Interbank Offered Rate：LIBOR、ライボー）を不正操作したことが理由である。これを機に、LIBORへの信頼性が失われたとされているが、このLIBORとは、いったいどのようなものなのだろうか。

LIBORとは

LIBORは、ロンドン金融市場いわゆる「シティ」で銀行同士が資金を融通しあうための取引市場での貸し手金利のことである。英国銀行協会により、予め定められた代表的な複数銀行の提示する午前11時現在の金利が集計され、毎営業日の午前11時半頃に発表されている。

世界の主要銀行が取引するロンドン金融市場では、LIBORが米国ドル、日本円、ユーロなど10通貨別に取り扱われており、様々な期間の金利（1週間、1ヶ月、3ヶ月など）で集計されている（図表1）。

日本でも東京銀行間取引金利（TIBOR、タイボー）という基準がある。各行の提示値を基に全国銀行協会が公表しており、金融機関が短期資金の貸し借りを行う無担保コール市場の実勢を反映した日本円TIBORと、オフショア市場の実態を反映したユーロ円TIBORがある。

影響力

LIBORは、国際金融取引における基準

金利として英国外でも使用されており、国際的な企業向け融資や、固定金利と変動金利を交換する金利スワップなどの基準金利として、また、変動金利型の住宅ローンなど、さまざまな金融商品の利回り算出に使われている。その他にも、企業の社債発行時の基準金利として、また、投資信託等で短期金利を上回ることを運用目標とする際のベンチマークとしても用いられている。

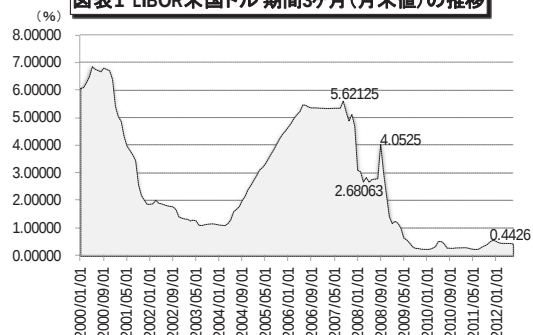
以上のように、LIBORの値動きによって、ローンの返済金利など世界中のあらゆる種類の金利が変わってしまうほどに、その影響力の裾野は広い。

おわりに

バークレイズは、07年の世界金融危機以前は、高めの金利の報告で利ザヤを得ていたという疑いが、さらに危機発生後は、低めの金利を報告することで、低利の資金調達を行っていた疑いがもたれている。

全世界でLIBORに関連した取引の規模は300兆ドル（約2.4京円）以上とも言われており、不正操作の影響は計り知れない。この問題は、金融市場の信頼を損ないかねず、世界の基準金利としての信用を取り戻すためにも、透明性と信頼性を高める改革が急務であろう。

図表1 LIBOR米国ドル 期間3ヶ月(月末値)の推移



(資料) Bloombergより農中総研作成